



【写真上】大賑わいの、歳末福引大売出しの様子
【写真下】落ち着いた雰囲気、歴史ある商店街

宇都宮商店街めぐり 第13回

ミネ銀座商店会

「宇都宮大学のそば、という 立地を活かし、新しい展開を」

1971年に設立された（ミネ銀座商店会）は、宇都宮大学の峰キャンパスと陽東キャンパスの間に位置し、広い住宅地にも隣接しています。

ミネ銀座商店会は、宇都宮大学峰キャンパスの東端から、123号線に沿って東へ約400mの範囲です。会員数は36店舗ですが、1971（昭和46）年に発足した当時は、倍近くだったと岡田俊光会長は振り返ります。

「設立当時の事業は、街路灯の整備でした。約50基設置したのですが、その多くは今も残っています」
住宅街と学生街を抱えた商店会だ

けに、顧客層も幅広いといえます。

「ただ、古くからの住宅地なので高齢化・人口減少も、ここに来て目立つようになりました。そういう現状に対応する品ぞろえやサービスも必要ですね」

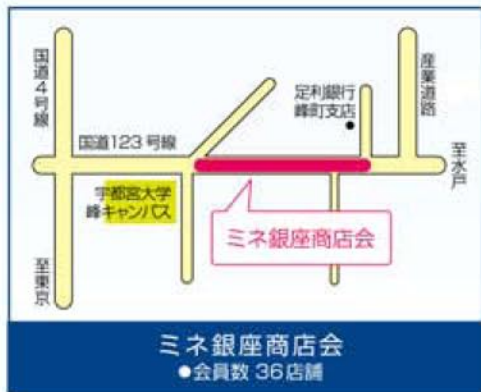
もう一つの課題は、学生顧客を取り込むこと。店舗の経営者の年齢も上がっているため、なかなか若者ニーズをつかみきれないのが、悩みの種といえます。

商店会として取り組んでいる大きなイベントとしては、歳末福引大売出しが挙げられます。もう30年くらい継続している、今では地域の人たちから「今年も楽しみにしていますよ」と声をかけられるほどです。また宇都宮市の商店街が全体で取り組んでいる、秋の「宮の市」でもふれあい懸賞を実施して

います。

「7月には、地域の盆踊り大会に婦人が模擬店を出します。婦人部だけのイベントは、市内の商店街では珍しいのでは」と岡田会長は笑みを浮かべます。

内部での研修も毎年行っています。昨年は川越商店街などを視察、今年は大洗や那珂湊を回る予定だそうです。「仲間同士、結束は固いですよ」とこりこりする岡田会長。これからも学生街と住宅街を支えてください。



ミネ銀座商店会
会長 岡田 俊光 さん

